

高速鉄道国際会議の開催について

- 平成26年10月22日（水）、IHRA は、東海旅客鉄道株式会社（JR 東海）、西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）、九州旅客鉄道株式会社（JR 九州）とともに、東海道新幹線開業50周年 「高速鉄道国際会議～飛躍する高速鉄道」をホテルオークラ東京にて開催しました。
- 計11カ国・地域の海外からの参加者を含め、参加者は304人（うち海外参加者71名）でした。
- 会議では新幹線システムが果たす社会的役割や、その歴史的経緯についての講演があり、また新幹線システムの発展の軌跡を、台湾高速鉄路を含めた5つの事業者から、それぞれの特徴を確認しつつ振り返りました。
- 会議後半では、世界の高速鉄道計画がある国からパネリストを招き、今後、計画を進める上での課題や、高速鉄道がもたらす社会的効果について、大変有意義な議論がなされました。
- これらの内容については、高速鉄道計画を持つ国々からの参加者にとっても、日本における高速鉄道関係者にとっても、非常に有意義であったと確信しております。
- 最後に高速鉄道の発展系の一つとして、超電動浮上式高速鉄道について、今後の計画などの情報を共有しました。
- 全体を通して、日本の高速鉄道についての知見、経験を広く共有することができ、大変すばらしい会議でした。

[会議プログラム]

(敬称略)

開会挨拶 柘植 康英 (J R 東海 代表取締役社長)

基調講演

テーマ : 「飛躍する高速鉄道」
ー世界のトランスフォーメーションに貢献する新幹線システム)
宿利 正史 (I H R A 理事長)

特別講演

テーマ : 「スティーブソンズの遺志を継ぐ新幹線の父」
ー世界の鉄道を変えた十河信二とその方式」
ティム・フィッシャー (元豪州連邦副首相)

セッション I

プレゼンテーション テーマ : 「新幹線システム発展の軌跡」
モデレーター : 森地 茂
(政策研究大学院大学政策研究センター所長)
パネリスト : 小菅 俊一 (J R 東海 常務執行役員)
吉江 則彦 (J R 西日本 取締役兼常務執行役員)
西山 隆雄 (J R 東日本 常務取締役)
青柳 俊彦 (J R 九州 代表取締役社長)
劉 文亮 (台湾高速鉄路 協理)

セッション II

パネルディスカッション テーマ : 「世界の高速鉄道計画ー課題と将来展望」
モデレーター : ロドリック・スミス
(インペリアルカレッジ 特任教授 英国)
パネリスト : ブライアン・ナイ (豪州鉄道協会 CEO)
N. K. シン (インド連邦議会名誉議員)
アズミ・アブドゥル・アジズ
(マレーシア陸上公共交通委員会最高開発責任者)
チュア・チョン・ヘン
(シンガポール陸上交通庁 副長官)
トム・シーファー (元米国駐日大使)

セッション III

プレゼンテーション テーマ : 「S C M A G L E V が拓く未来、新しい社会」
柘植 康英 (J R 東海 代表取締役社長)
トム・ダシュル (元米国上院院内総務、T N E M 諮問委員会)

会議総括 葛西 敬之 (J R 東海 代表取締役名誉会長)

閉会挨拶 真鍋 精志 (J R 西日本 代表取締役社長)

[会議の様子]



写真 1 : 会場の様子 1



写真 2 : 会場の様子 2



写真 3 : 基調講演 (宿利理事長)



写真 4 : 特別講演 (ティム・フィッシャー氏)



写真 5 : セッション I (森地教授)



写真 6 : セッション I (パネリスト)



写真 7 : セッション II (パネリストディスカッション)



写真 8 : 会議後の記者会見